

動向

中国における中日語彙対照研究の動向 2016

施 暉

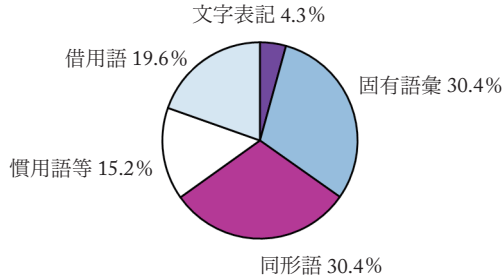
はじめに

2016年一年間における中日語彙に関する対照研究を、テーマ別に項目をたて、取り上げる。各項目への振り分けは便宜的なものである。また、紹介する論文や著書には、筆者の関心による偏りや取りこぼしが生じているかと思われる。そのことを最初にお断りし、ご寛恕を願いたい。

1. 学術論文

1.1 総論

筆者は2016年の研究動向を把握するために、まず研究文献について量的に調べた。「中国知網」(略称 CNKI、中国学術研究の最大ポータルサイト)で「日本語」を検索したところ、中日語彙対照研究に関する論文は46本あった。その研究対象による内訳は下図の通りである。中日固有語彙(借用語に対して使う)の意味用法に関する対照研究の論文が最多で14本に上り、意味用法の対照研究が重要視されていることがわかる。また、中日同形語に関する論文も14本あって、依然として注目を浴びる研究テーマであると言える。その他には、中日借用語に関する論文が9本、慣用語、諺、性向語彙等についての論文が7本見られた。



以下に『語文学刊』『日語学習与研究』『東北亜外語研究』『漢日語言対比研究論叢』等に掲載された論文を中心に今期の研究動向について紹介する。

1.2 論文

1.2.1 中日固有語についての対照研究

中日語彙の対照研究においては両言語の固有語についての比較研究が勢いを増しており14本もの論文を検出できた。そのうち、認知言語学に関わる研究論文は8本あって、認知言語学に関する研究の繁栄ぶりが浮き彫りになっている。

武俐《“左、右”空間隐喻概念的汉日对比研究（「左、右」という空間の概念メタファーに関する中日対照研究）》においては、空間概念を用いて「目標領域も隐喻意味も同じ」「目標領域は同じであるが、隐喻意味は異なる」「目標領域も隐喻意味も異なる」という三つの視点から中日両言語における「左、右」及び「左右」という空間の比喩表現や意味転用等に考察を加えて、両言語の「左、右」という空間メタファーとしては普遍的な面もあれば、特殊な面もあると指摘している。

李梓嫣《日语“心”义族词和汉语“心”的对应关系（日本語の「心」及びその類義語と中国語の“心”との対応関係）》は実例に基づいて言葉と民族性の関わり方に焦点を当てながら考察した。「日本語における「心、気、胸、腹」という四つの言葉は、その意味用法としてはいずれも文脈によって中国語の“心”と同じかまたは類似しているかである。しかしながら、そのどち

らも中国語の“心”と全く対応していない」と分析している。

色彩を表す言葉は社会、文化、歴史等を投影する記号であり、豊かな文化的な蓄積を有していると考えられる。王保田・李健雄《社会语言学视阈下的中日色彩语码考察研究—以紫色为例（中日色彩語彙に関する社会言語学的考察—紫色を例として—）》では社会言語学の視点から古代の服飾、宗教及び文学作品等を通して中日の紫色に関する異同を考察して、次のようなことが指摘されている。中国における紫色は「卑賤」という象徴的な意味合いから、次第に「高尚で神秘」であるという方向へと移行してきた。一方、日本の紫色は中国と違って古くから高貴な象徴性を有し、加えて中国からの伝統的な審美意識、嗜好価値の影響を受けて、「優雅、高貴、神秘」といったイメージが変わることなく保たれているとある。

疏蒲剣《程度副詞的汉日对比研究—以「極めて」「ごく」「極」为对象（中日程度副詞についての対照研究—「極めて」「ごく」「極」を对象として—）》と題する論文においては、まず「BCCWJ コーパス」を検索し、当該の程度副詞の修飾対象について調べたところ、「ごく」はその修飾対象が限定的でゼロ値を示すものに偏っているのに対して、「極めて」はこのような制約が見られないし、客観的な出来事を表すことに多用されているという傾向性もあると説いている。その上、日本語の「極めて」と中国語の「極」について対照分析を行い、用法上の差異にも触れている。

1.2.2 中日「同形語」についての対照研究

中日「同形語」に関する論文は合わせて14本も見られ、盛んな研究ぶりを見せている。なお、それらの論文内容は各自の研究目的に基づいて、総論、意味用法、対訳及び教授習得などに大別できる。

意味用法についての対照研究の論文は4本ある。例えば、曹彦林《论中日同形词「入手」和“入手”的关系（中日同形語「入手」と“入手”の相関関係について）》では、通時的と共時的という角度から中日同形語の「入手」が熟語として両国語に登場した時期について調査、考察した結果、中国語における“入手”は日本語より早く使用されただけでなく、意味用法の変化を経て、今日に至っても依然として多義語として使われていることが説かれてい

る。また、中日同形語「入手」は用法上に止まらず、意味やニュアンスにおいても違いが存しているとも指摘している。

陸珊娜《汉日韩异义汉字同形词的语义演变规律（中日韓三言語における同形異義語の意味変化規則についての対照研究）》は、「事情」「先生」「新聞」「作業」及び「深刻」という五つの中日韓三言語における同形異義語を取り上げて、それぞれの語源から語義の産出、さらに意味の変化のプロセスを巡って考究したところ、次のような意味変化の類型を帰納することができた。(1) 中国語自体の意味が時代とともに変わったことによる意味変化、(2) 日本語と韓国語に導入された漢語が両言語に使用されているうちにそれぞれ生じた意味変化、(3) 外来語の翻訳においてそれぞれ異なった訳語が用いられたことによる意味変化、となる。言語交渉は歴史、社会及び言語の相互借用等によって行われることであるとも言及している。

洪潔《中日同形类义词的互译与意义相似度研究（中日同形類義語の相互訳と類義度についての研究）》では、「品詞」「構文」「文体」及び「語構成」という四つの観点から中日同形語の相互訳について考察を加え、従来の「同形同義、同形異議、同形類義」といった固定的な分類を突破して、意味の類義度合いに応じて、同形異義語を「同形同義語」「同形類義語Ⅰ類」「同形類義語Ⅱ類」「同形類義語Ⅲ類」「同形類義語Ⅳ類」と細分類した上で、さらに類義度の低い同形類義語については、学習者が特に注意を払うべきであるとも指摘している。この論文の論点は、先行研究と違って同形異義語の意味用法弁別に関する研究に新たな知見を与えることになるとも言えよう。

白曙光《从日语学习者的角度看日汉同形词典编写中存在的若干问题（日本語学習者から見る日中同形語辞典編集上の幾つかの問題）》は日本語教学という見地に立って、試みとして特定のテーマ練習を指導するというスタイルで面白味のある教科書を作る方がよいのでは、と提案した。従来の辞書類と異なる問題提起は中日同形語辞典編集にとって参考に値する。

1.2.3 中日借用語についての研究

馮良珍・郭英夫《〈古事記〉中的语义异变类型分析（『古事記』の意味変化類型に関する分析）》は、変体漢文である『古事記』における漢語の意味変

化に着眼して、意味論の「意義素」と「意味領域」という概念を生かしつつ意味変化のパターンを分析した。「意義素」に基づいて『古事記』に用いられる漢語の意味変化は三つの類型に分けられるという。(1)部分的に漢語の意義素を借用した上で、さらに新たな意義素を編み出すこと、(2)漢語の意義素を利用せずに、漢語と類似する意義素を新たに産出すること、(3)漢語の意義素を完全に借用し、その上に新しい意義素を創出すること、である。一方、「意義素」はいつも「意味領域」とともに変化が生じるとも論じている。

鐘華《汉语日源借词现象与当代中国大学生的语言习惯（日本語から借用した中国語と現代中国大学生の言語習慣）》、範玉梅《浅议日语借词对汉语及日语教学的影响（日本語からの借用語による中国語及び日本語教育への影響について）》、沈英莉・王飛《浅议日语借词对现代汉语的影响（日本語からの借用語による現代中国語への影響について）》等の論文では、いずれも日本語出自の借用語が中国語に与えた影響について考察、分析を行った。その上で、範玉梅は日本語から借用した漢語が中国語の語彙を増やし、表現力を豊富にさせ、中国語の文法にも影響を及ぼしたとも力説している。

王振霞《现代汉语日源词对“写真”一词的考察（現代中国語における日本語出自の「写真」という漢語についての考察）》、劉波《日源借形词的语义形成过程（日本語出自の中国語の意味形成について）》は具体例の分析を通して日本語出自の漢語と中国語との相関関係について考察した内容である。この論文では、「写真」という言葉は中国語出自の漢語であり、日本語に入り、意味変化が生じた後、中国語に逆輸入されたといったような、借用と被借用のプロセスを明らかにしている。それに加えて、「意味」「品詞」「使用状況」及び「語用的機能」を通じて中日の「写真」の異同を探った。

劉波の論文は認知言語学の理論を応用して“写真”“空巢”“正太”等の用例を挙げながら日本語出自の同形語の意味分析によって、次のような三つのモデル形式の構築を試みた。(1)心理的語彙バンクからそれに対応できる意味を見出して語の意味を形成すること、(2)思惟推理による語の意味を形成すること、(3)語コードの転用による語の意味を形成すること、である。

柯克雷《中国现代新语与流行词的日语偏向—以“颜”为例（現代中国新

語と流行語が日本語からの借用に偏っていることについて—“顔”を例として—》では、“顔”及びその関連語を例として、近年中国語に現れている新語と流行語が、英語・フランス語等出自のものとは比べて、日本語からの借用に偏っているという言語現象及びその理由・背景について分析を行った。

1.2.4 中日慣用語、性向語彙についての対照研究

徐靖《認知視域下的汉日场所惯用语对比研究（認知言語学的に中日場所に関わる慣用語についての対照研究）》では認知言語学の視点から場所、空間及び方位に関わる中日慣用語について考察した。まず、中日の場所に関連する慣用語の認知モデルを分析した。さらに、中日慣用語の意味用法に関する対応関係について両者の共通点と相違点を併せて考察した。その上で、中日慣用語の対応動因についても「共通認識的文化」「民族文化」を基盤に、「社会規約」「文化規約」「心理規約」を織り成しながら認知を働かせていると説明している。

施暉・樂竹民《“性向词汇”的汉日对比研究—以“善于交际、好接触的人”为中心（「性向語彙」についての中日対照研究—「人付き合いの良い人、親しみやすい人」を中心に—）》は「性向語彙」に関する研究論文の一つである。社会言語学、言語文化学等の研究方法を運用して、人々の性向を網羅的に表す111の意味項目のうち第99番目にあたる「人付き合いの良い人、親しみやすい人」という意味項目を巡って、中日比較、分析を行って、中国人の性向語彙量が、異なり語数においても、延べ語数においても、いずれも日本語を遥かに上回り、多様性、多産性をもっているという特徴を示している。また、「人付き合いの良い人、親しみやすい人」はプラス評価の意味項目であるが、両国語には少なからぬマイナス評価語も見られて、プラス評価からマイナス評価に傾斜するという傾向を投影して、「性向語彙」の「負性原理」を顕在化させている。

1.2.5 文字研究及びその他

秦明吾《关于日本国字（和制汉字）汉语读音和汉译之研究—以22个最常用国字为例（日本国字の読みと中国語訳についての研究）》では日本国字の歴史と造字法を考察した。22字の常用国字についてその読みと中国語訳を

中心に分析し、日本国字の中国語訳において五つのパターンに帰納した。

掲瑤函《浅谈中日汉字字形相似的表记偏误问题（中日漢字字形の類似による表記の間違いについて）》は中日で漢字字形が似ているため、表記の間違いが起きやすい334字があるが、そのいずれも「略字ではなく表記が違う」漢字であると指摘している。なお、「活字字体のデザインの違い」「手書きと印刷体の違い」及び「字体の許容」という側面から中日漢字字形の差異が生まれた要因についても触れている。

何哲《论日语动词语意志性特征（日本語動詞に見られる意志性の特徴について）》では語レベルと構文機能という視点から日本語の動詞の意志性という特徴を論じている。

2. 修士論文と博士論文

劉虹男《汉语动量词在日语中的对应表达及教学策略研究（中国語動量詞における日本語の対応表現及び教学方略についての研究）》は理論と実証という二つの部分から構成され、理論部分では中日教学の視点から、両国語の対照比較を通じて中国語動量詞、動詞と数詞との組み合わせ及び日本語の対応表現の差異、類型性について論じている。

王曉冉《面向日本学生的汉日形近词对比研究（日本学生向けの中日語形類似語についての対照研究）》では、中国語教学という視点から『新 HSK 語彙大綱』の1級～4級にある中日語形類似語を研究対象に、語形、語義及び品詞等について詳しく分析、考察している。中日両言語の語形類似語の教学にとって啓発される場所もあった。

小野寺優《汉日谚语对比研究—以关于动物、自然、人的谚语为例（中日両言語における諺についての対照研究—動物、自然、人間にまつわる諺を中心に—）》は中日両言語における動物、人物及び自然にまつわる諺を中心に、意味用法に絞って両言語の諺を対照研究したことによって、類似点と相違点が明らかになった。その上で、相違点を生んだ要因や背景までも考察を試みた。

3. 著書

秦礼君《日汉比较词汇（中日語彙についての比較研究）》（中国科学技术大学出版社、2016年4月）は以下の十つの章及び付録からなる。

前言（前書き）

第一章 绪论（序論）

第一节 词汇、词汇学 and 日汉比较词汇（語彙、語彙学と日中語彙の比較）

第二节 日汉词汇比较的方法和角度（日中語彙比較の方法と視点）

第二章 词汇构成（語構成）

第一节 母语词汇（母語語彙）

第二节 外来语词汇（外来語彙）

第三节 汉字词汇（漢字語彙）

第四节 混合语词汇（混種語彙）

第三章 词义（意味）

第一节 什么是词义（意味とは何か）

第二节 词义的种类（意味の種類）

第三节 词义的变化（意味変化）

第四章 同义词 反义词（同義語、反義語）

第一节 同义词（同義語）

第二节 反义词（反義語）

第五章 同形词 同音词（同形語、同音語）

第一节 同形词（同形語）

第二节 同音词（同音語）

第六章 复合词 派生词（複合語、派生語）

第一节 复合词（複合語）

第二节 派生词（派生語）

第七章 略语 叠语（略語、疊語）

第一节 略语（略語）

第二节 叠语（疊語）

第八章 成语 谚语 惯用语 歇后语（成語、諺語、慣用語、歇後語）

第一节 成语（成語）

第二节 谚语（諺語）

第三节 惯用语（慣用語）

第四节 歇后语（歇後語）

第九章 拟声拟态词（擬声擬態語）

第十章 呼词（立ち上げ詞）

付録一：建国以来中日语言对比研究（词汇部分）（1949年以降の中日両言語対照研究（語彙に関する研究））

付録二：日汉词汇比较方面部分论文目录（日中語彙についての対照研究論文目録（一部分））

おわりに

以上、2016年中国における中日語彙対照研究の動向について概略的に記してきた。評者の誤解、理解不足、調査の不十分な点等については、著者及び読者の方々にご教示いただければ幸いである。

参考文献

- 白晓光（2016）《从日语学习者的角度看日汉同形词词典编写中存在的若干问题》[J]，《汉日语言对比研究论丛》，第7辑，42-52。
- 曹彦林（2016）《论中日同形词「入手」和“入手”的关系》[J]，《汉日语言对比研究论丛》，第7辑，53-63。
- 范玉梅（2016）《浅议日语借词对汉语及日语教学的影响》[J]，《语文建设》，第9期，13-14。
- 冯良珍·郭英夫（2016）《〈古事记〉中的语义异变类型分析》[J]，《日语学习与研究》，第3期，66-74。
- 何哲（2016）《论日语动词意志性特征》[J]，《日语学习与研究》，第2期，31-38。
- 洪洁（2016）《中日同形类义词的互译与意义相似度研究》[J]，《汉日语言对比研究论丛》，第7辑，32-41。
- 揭瑶函（2016）《浅谈中日汉字字形相似的表记偏误问题》[J]，《日语教育与日本学研究》，

331-335.

- 柯克雷 (2016)《中国现代新语与流行词的日语偏向—以“颜”为例》[J],《浙江工商大学学报》,第2期,29-38.
- 李梓嫣 (2016)《日语“心”义族词和汉语“心”的对应关系》[J],《语文学刊》,第7期,43-45.
- 刘波 (2016)《日源借形词的语义形成过程》[J],《沈阳大学学报》(社会科学版),第1期,108-111.
- 刘虹男 (2016)《汉语动量词在日语中的对应表达及教学策略研究》[D],吉林大学.
- 陆珊娜 (2016)《汉日韩异义汉字同形词的语义演变规律》[J],《现代语文》(语言研究版),第2期,137-141.
- 秦礼君 (2016)《日汉比较词汇》[M],中国科学技术大学出版社.
- 秦明吾 (2016)《关于日本国字(和制汉字)汉语读音和汉译之研究—以22个最常用国字为例》[J],《日语学习与研究》,第3期,90-97.
- 沈英莉·王飞 (2016)《浅议日语借词对现代汉语的影响》[J],《语文建设》,第15期,81-82.
- 施晖·栾竹民 (2016)《“性向词汇”的汉日对比研究—以“善于交际、好接触的人”为中心》[J],《东北亚外语研究》第1期,35-41.
- 疏蒲剑 (2016)《程度副词的汉日对比研究—以「極めて」「ごく」「极”为对象》[J],《汉日语言对比研究论丛》,第7辑,106-117.
- 王保田·李健雄 (2016),《社会语言学视阈下的中日色彩语码考察研究—以紫色为例》[J],《江苏大学学报》(社会科学版),第2期,82-87.
- 王晓冉 (2016)《面向日本学生的汉日形近词对比研究》[D],沈阳师范大学.
- 王振霞 (2016)《现代汉语日源词对“写真”一词的考察》[J],《语文学刊》,第5期,36-38.
- 武俐 (2016)《“左、右”空间隐喻概念的汉日对比研究》[J],《语文学刊》(外语教育教学),第1期,67-69.
- 徐靖 (2016)《认知视域下的汉日场所惯用语对比研究》[J],《外语教学》,第2期,48-51.
- 钟华 (2016)《汉语日源借词现象与当代中国大学生的语言习惯》[J],《语文学刊》,第4期,132-133.
- 小野寺优 (2016)《汉日谚语对比研究—以关于动物、自然、人的谚语为例》[D],哈尔滨师范大学.

施晖 Shi Hui 蘇州大学外国語学院教授 専門：日本語学・日中言語文化比較